

特集 東京オリンピック・パラリンピック 聖火リレー

ギリシャから引き継がれてきたオリンピック聖火リレー。3月25日に福島県をスタートし、北杜市には6月26日にやってきました。

生涯学習課 ☎42・1373 ㊟42・1124



長坂総合スポーツ公園陸上競技場

オリンピック聖火は全国を巡り、東京2020大会への期待をのせて新国立競技場の聖火台へ運ばれていきます。

北杜市からは山本恭佑さん、矢野育帆さんが聖火ランナーに決定しています。山本さんは市内を、矢野さんは富士山5合目を走ります。2人に聖火ランナーとしての思いを伺いました。

市内を走るの、高根中学校2年生の山本さん。オリンピックが日本で開催されるのは、一生に一度のチャンスかもしれないと思い、聖火ランナーに応募したと言います。聖火ランナーに決定した時には、「びっくりしたけれど、とても嬉しかった」と話してくれました。

サッカークラブの北杜UFCジュニアユースに所属する山本さん。聖火ランナーとして走ることを、



高根中学校2年 山本恭佑 さん

家族はもちろんです。学校のクラスメイトも応援してくれているとのこと。「オリンピックはトップアスリートが努力の成果を発揮し、見ている側も熱くなる祭典。スポーツを愛する気持ちを含めて、笑顔で走りたい」と力強

く意気込みを語ってくれました。

山梨英和高校に通う高校1年生の矢野さんは、富士山のコースを走ります。

小学校2年生から清里スキークラブで始めたアルペンスキーをきっかけに、「地元を盛り上げたい」という思いが強くなったと話す矢野さん。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で延期されたオリンピック。この1年間は、オリンピックが開催されるのか、また聖火ランナーとして走ることができないのか不安を感じながらも「オリンピックは平和の祭典。コロナ禍の中、スポーツは平和でないとできないということを実感した」と言います。



山梨英和高校1年 矢野育帆 さん

中学校ではアルペンスキーの選手として山梨代表にも選ばれた矢野さん。「地元を盛り上げられるように、またオリンピックという世界の祭典に携われることに誇りを持って走りたい」と笑顔で話してくれました。

平和・団結・友愛といったオリンピックの理想を体現する聖火リレー。それぞれの思いを胸に希望の灯を繋いでいきます。